

O-38 当院臨床工学技士における人工呼吸器保守管理 および院内教育の検討

東海大学医学部付属病院 臨床工学技術科

西原 英輝、田中 進一

【目 的】

当院での臨床工学技士（以下 CE）の人工呼吸器関連業務は、使用中・後点検、当直による 24 時間の緊急対応、年間メンテナンス計画の立案・遂行、人工呼吸器関連物品の管理、新人看護師・臨床研修医に対する講習会の開催がある。今回は、講習会に対する検討および呼吸器関連物品であるテストラングの滅菌の必要性を検討した。講習会は 1 年目・2 年目の臨床研修医および一般病棟に所属する新人看護師を対象とし 1 回の受講人数は 10 名程度とした。講習時間は約 1 時間で前半は講義、後半は呼吸器を使った取扱い説明とした。評価には、講習会終了後のアンケートと 2001 年度～2006 年度までの人工呼吸器に関連したインシデントレポートを用いた。新人看護師に対する講習会では、主にアラームの対処が分かってよかったという意見が多く聞かれた。しかし専門用語が多く説明のスピードが早くついていけなかったという受講生もあり、もっと分かりやすい説明が求められていた。臨床研修医に対する講習会では講義よりも実習時間が重要であり、2 年目の臨床研修医ではより臨床での使い方を習得したいとの意見が多く、機器の細かい動作や使い方の説明が必要であった。インシデント報告においては、経験年数 1～3 年目のスタッフによるものが半数以上であった。内容別では、CE による管理が始まった 2003 年度より機器本体の故障や呼吸器回路に関する報告は減少。しかし 2006 年度は機器本体の故障による件数が増加した。これは当院が 2005 年 12 月に新

病院に移転した際に購入した機器が初期不良期間にあった為と考えられた。なお取り扱いに関する件数は変化が見られなかった。

テストラングの滅菌に関する検討では、使用後テストラング 7 件の滅菌前後で培養を行った。結果は滅菌前で 1 件緑膿菌が検出され、滅菌後は菌の検出はなかった。

【まとめ】

CE が人工呼吸器関連業務に携わるようになり、メンテナンス面では基本的に安全な運用ができるようになった。しかし設定ミスや機器の取扱いに関するインシデント件数は変化が見られず、講習内容や設定確認の方法を見直すなどの必要があった。また新人看護師と臨床研修医では講習内容のニーズに違いがあり、各々にあった内容設定をする必要性が改めてわかった。開催時期に関しては、新人看護師は業務になれてきた時期、臨床研修医では早めの時期が望まれていた。テストラングの取扱いに関しては、使用後病原菌が付着しているものがあり、滅菌の必要性が示唆された。

【結 語】

CE による人工呼吸器保守管理業務および院内教育は安全な医療を提供するうえで重要であった。今後は他職種との連携を深め、ニーズに合った業務を行う必要があると考えられた。